

保護者のみなさまへ

コレだけは  
知っておきたい!  
教育NEWS

イマ  
どき

2022大学入学共通テスト【英語（リーディング）】より

B You are in a student group preparing a poster for a scientific presentation about the theme "What we should know in order to protect the environment." You have been using the following passage to create the poster.

Recycling Plastic  
—What You Need to Know—

The world is full of various types of plastic. Look around, and you will see dozens of plastic items. Look closer and you will notice a recycling symbol on them. In Japan, you might have seen the first symbol in Figure 1 below, but the United States and Europe have a more detailed classification. These recycling symbols look like a triangle of chasing arrows, or sometimes a simple triangle with a number from one to seven inside. This system was started in 1988 by the Society of the Plastics Industry in the US, but since 2008 it has been administered by an international standards organization, ASTM (American Society for Testing and Materials) International. Recycling symbols provide important data about the chemical composition of plastic used and its recyclability. However, a plastic recycling symbol on an object does not always mean that the item can be recycled. It only shows what type of plastic it is made from and that it might be recyclable.

Figure 1. Plastic recycling symbols



So, what do these numbers mean? One group (numbers 2, 4, and 5) is considered to be safe for the human body, while the other group (numbers 1, 3, 6, and 7) could be problematic in certain circumstances. Let us look at the safer group first.

High-density Polyethylene is a recycle-type 2 plastic and is commonly called HDPE. It is nontoxic and can be used in the human body for heart

valves and artificial joints. It is strong and can be used at temperatures as low as -60°C and as high as 100°C. HDPE can be reused without any harm and is also suitable for beer-bottle cases, milk jugs, chairs, and toys. Type 2 products can be recycled several times. Type 4 products are made from Low-density Polyethylene (LDPE). They are safe to use and are flexible. LDPE is used for resealable bottles, and bread wrapping. Currently, very little Type 4 plastic is recycled. Polypropylene (PP), a Type 5 material, is the second-most widely produced plastic in the world. It is light, non-stretching, and has a high resistance to impact, heat, and freezing. It is suitable for furniture, food containers, and polymer banknotes such as the Australian dollar. Only 3% of Type 5 is recycled.

Now let us look at the second group, Types 1, 3, 6, and 7. These are more challenging because of the chemicals they contain or the difficulty in recycling them. Recycle-type 1 plastic is commonly known as PETE (Polyethylene Terephthalate) and is used mainly in food and beverage containers. PETE containers—or PET as it is often written in Japan—should only be used once as they are difficult to clean thoroughly. Also, they should not be heated above 70°C as this can cause some containers to soften and change shape. Uncontaminated PETE is easy to recycle and can be made into new containers, clothes, or carpets, but if PETE is contaminated with Polyvinyl Chloride (PVC), it can make it unrecyclable. PVC, Type 3, is thought to be one of the least recyclable plastics known. It should only be disposed of by professionals and never set fire to at home or in the garden. Type 3 plastic is found in shower curtains, pipes, and flooring. Type 6, Polystyrene (PS) or Styrofoam as it is often called, is hard to recycle and catches fire easily. However, it is cheap to produce and lightweight. It is used for disposable drinking cups, instant noodle containers, and other food packaging. Type 7 plastics (acrylics, nylons, and polycarbonates) are difficult to recycle. Type 7 plastics are often used in the manufacture of vehicle parts such as seats, dashboards, and bumpers.

Currently, only about 30% of plastic is recycled, and approximately 55% ends up in a landfill. Therefore, knowledge about different types of plastic could help reduce waste and contribute to an increased awareness of the environment.

Your presentation poster draft:

Do you know the plastic recycling symbols?

What are plastic recycling symbols?

41

Types of plastic and recycling information

Type	Symbol	Description	Products
1		This type of plastic is common and generally easy to recycle.	drink bottles, food containers, etc.
2		This type of plastic is easily recycled.	heart valves, artificial joints, chairs, toys, etc.
3		This type of plastic is easily recycled.	shower curtains, pipes, flooring, etc.
4			

Plastics with common properties

47  
48

リサイクルマークについて書かれた説明文を読み、発表用ポスターを作るという設定の問題で、問題文だけでもこの長さ。リーディング全体の単語数は昨年より500語以上増えて、6,066語に!

料理の本、ウェブサイト、ブログ、雑誌など、出題される文章のジャンルは多種多様!

“使える英語”を目指して  
高校卒業までに  
英語で発信できる力を!

大学入試が変われば  
高校の英語教育も変わる

4月から高校で新学習指導要領が実施され、科目が変わり、教科書が変わります。特に英語は、コミュニケーション力や発信力を重視する方向に変化。これから英語をどのように学んでいけばよいのか、英語教育に詳しい阿野先生に聞きました。

今年で2年目となる大学入学共通テストの問題をご覧になったでしょうか。共通テストでは、英語はリーディング100点・リスニング100点と、リスニングの比重が増加（センター試験はリーディング200点・リスニング50点）。このほかにも、センター試験とは次の違いがあります。

◆全体的にCOMOPO（英検2級程度）レベルに難化！

●単語数が増加（センター試験：約4000語）

2022英語（リーディング）の出題内容 (↓西北出版の資料をもとに作成)

大問	小問	出題内容	マーク数	配点
第1問	A	料理の本（ブラジルの果物）	2	4
	B	動物園のウェブサイト（キリンの赤ちゃんの名前募集）	3	6
第2問	A	プリント（大学図書館の利用案内）	5	10
	B	学校通信（ペットを飼うことよさ）	5	10
第3問	A	ブログ記事（国際交流イベントで体験した日本文化の紹介）	2	6
	B	雑誌（ある登山チームの活動記録）	6	9
第4問		2つのブログ記事（大学の新生入生が家電をどこで買うべきか）	6	16
第5問		伝記的文章と発表用メモ（テレビの発明者の話）	9	15
第6問	A	エッセイ的な文章と要約メモ（朝型と夜型について）	5	12
	B	説明的文章と発表用ポスター（リサイクルマークの種類について）	5	12
計			48	100

4500語、共通テスト：2021年5495語、2022年6066語

●出題される文章のジャンルが多様化、長文化

●内容を理解した上で思考力・判断力・表現力を問う問題が増加

●発音、アクセント、語句整理などを単独で問う問題（一問一答型の知識問題）の廃止

●「リスニング」

●読み上げる英文が長くなった（単語数は2021年1510語、2022年1558語）

●2回読みは2問のみ、残り4問は1回読みに英語ネイティブ以外の話者も

●このように、大学入学共通テストは、新学習指導要領の趣旨に沿って変わったことがわかります。知識やパターンの暗記ではなく、英語を「読む」「聞く」本質的な力を問う問題に変わったのです。

●なぜ、変わったのでしょうか。それは、入試を変えて、高校の授業を、使える英語が身につくものへと抜本的に変える必要があるからです。

●実は、2009年に改訂された高校学習指導要領で「授業を実際のコミュニケーションの場面と定めるため、授業は英語で行うことを基本とする」と定められているのですが、10年以上経った今でも、それがどこまで浸透しているのかは不確かです。高校によっては、音読、発音練習、文法解説、

お話しくださったのは……



文教大学国際学部国際理解学科教授  
同大学院国際学研究所教授  
阿野幸一先生

早稲田大学大学院教育学研究科英語教育専攻修了。専門は英語教育（主に教室での指導と教材開発）、応用言語学。埼玉県立高等学校・中学校、茨城大学を経て現職。大学では英語教員養成を中心に担当。著書に文部科学省検定小学校教科書『NEW HORIZON Elementary』／中学校検定教科書『NEW HORIZON English Course』（編集代表、東京書籍）など多数。NHKラジオ講座『基礎英語』など、ラジオ・テレビの講師としても活躍。元モーニング娘。の講師里保さんを迎えリニューアルした『高校講座 英語コミュニケーション』（NHK・Eテレ）が4月7日からスタート。

文法訳読といった昔と変わらない授業を行っているケースも多々あるようです。これでは、いつまでたっても、実際のコミュニケーションで「使える英語」にはなりません。

そこで、2022年4月からの高校英語では、卒業時に、日常会話や旅行で困らないレベルの英語力が身につくよう、「コミュニケーション」に特化した英語教育に変わっていきます。

### 【これまでの高校英語】

※( )は単位数

※必修 コミュニケーション英語Ⅰ(3)  
コミュニケーション英語基礎(2)  
コミュニケーション英語Ⅱ(4)  
コミュニケーション英語Ⅲ(4)  
英語表現Ⅰ(2)  
英語表現Ⅱ(4)  
英語会話(2)



### 【2022年4月～の高校英語】

※必修 英語コミュニケーションⅠ(3)  
英語コミュニケーションⅡ(4)  
英語コミュニケーションⅢ(4)  
論理・表現Ⅰ(2)  
論理・表現Ⅱ(2)  
論理・表現Ⅱ(2)

## 英語で情報や考えを伝え合う コミュニケーションの力を育む

これまでの高校英語では、「コミュニケーション英語」で4技能の総合的な育成を図り、「英語表現」でスピーチ、ディベート、ディスカッションやパラグラフライティングなどの「話す」「書く」の力を強化してきました。

しかし、この「英語表現」が文法解説の授業に終始し、言語活動はほとんど飛ばされているという実態がありました。私の大学の学生たちからも高校時代、定期テストは暗記でいい点数が取れたけれど、TOEICでは全然点数が伸びなかったという話をよく聞きます。

そこで今年4月からは、「論理・表現」という科目で、「話す」「書く」の言語活動を豊富に行っていきます。教科書の内容もかなり変わりました。「使える英語」を身につけるには、まず、「聞く」「読む」という大量のインプットが必要です。そ

の上で、「話す(やり取り・発表)」や「書く」のアウトプットを行い、4技能・5領域をスパイラルで向上させていきます。高校英語は、こうした英語学習の本来の姿に立ち返り、高校卒業までに目的・場面・状況に応じて、実際に英語でコミュニケーションできるようになることが目標です。

## プールに入らなければ 泳げるようにはならない

ただ、勘違いしないでいただきたいのは、コミュニケーション⇨英会話ではないこと。英語でのEメールのやり取り、海外のサイトや英字新聞の記事を読むことなど、「読む」「書く」を含むすべてがコミュニケーションです。これからの英語教育は、こうしたコミュニケーションベースが大前提。文法用語や定型文を暗記したり、一語一語訳したりすることは目的ではありません。

水泳にたとえると、これまでは陸上で泳ぎ方ばかり教えて、プールに入って泳がせていなかったようなものです。しかし、これからの英語教育では、プールに入って泳ぎ方を学んでいきます。いくら失敗してもいいのです。「この状況では、この単語が適切だ」「この場面ではこっちの表現のほうが伝わるな」と身をもって感じることで、「知識・技能」が身につく、英語が使えるようになります。

また、高校での評価の観点にも「主体的に学習に取り組む態度」が入ってきますが、英語のアウトプットでは、「主体性」が特に重要です。スベリングや文法などの「正確さ」だけでなく、自分の気持ちや意見を、目的・場面・状況に応じて話したり書いたりする「適切さ」が評価されるようになります(右下の資料参照)。

英語で自分が本当に伝えたいことを表現できるようにすることは、未来に向けた子どもたちの「生きる力」につながっていきます。「使える英語」を目指して、小学生からスパイラルで学習を積み重ねていってほしいですね。

### 【資料】英作文の評価基準の例

- 内容 自分の意見や気持ちなどを、具体性、オリジナリティがある内容で書き表しているか。
  - 表現の工夫 内容を伝えることに成功しているか。単語・表現を駆使して伝える工夫をしているか。つながり・まとまりがある文章になっているか。
  - 正確さ 文法、つづり、書き方(文字の形・スペリングなど)が正確か。
  - 量(自由作文の場合) どれだけたくさん書けているか(多くの情報を伝えようとしているか)。
- ☑「正確さ」だけでなく「適切さ」が重視される!

#### 例:これまで見られた英作文

Q. 現在完了形を使って、4つの文を書きなさい。  
I have just heard the news.  
I have lost my cellphone.  
I have met Kathy's brother twice.  
She has lived in Paris for three years.  
☑ 4つの文に、内容のつながりがまったくない!

#### 例:これから求められる英作文

Q. あなたの最近の出来事で驚いたことを、友達に伝える文章を書きなさい。  
Kathy's brother says he has met me twice.  
I have just heard it.  
I am very surprised to hear that.  
I don't remember him at all.  
☑ 内容につながり・まとまりがある!

阿野先生に聞きました!

## これからの英語学習のポイント

Don't be afraid of making mistakes!

1

小学生

英語を好きになる!

会話だけでなく読み聞かせや歌、チャッツなどで、「聞く」をメインとした大量のインプットを。小学生段階では「I want to be a Italy.」は何かおかしい、「I want to go to Italy.」が正しいな」と気づくことができれば十分。間違いを気にせず、楽しく英語にふれ、英語を好きになることが一番。

2

中学生

知識を整理する!

インプット>アウトプットで。大学入試の英語は中学英語で8割解ける、という調査も(参考:『中学英文法で大学英語入試は8割解ける!』アルク/金谷憲)。中学で習う英文法は徹底して身につけておきたい。中学英語の定着は、教科書の巻末にある基本表現を、日本語→英語にできるかどうか。

3

小中高を通じて

英語を使う!

大学入学共通テストを見ればわかるように、リーディングでもリスニングでも、「あなたは今レストランにいます」といった場面が設定され、状況や目的に応じて英語を使う力が求められる。直接の対話はもちろん、SNS、ネット、新聞、映画、音楽など、多様に大量に英語にふれることが大切。